

☰ 概要



アイデア概要

自治体データを活用し、生成AIで支援が必要な子供たちの状況をまとめたストーリー動画生成を生成。それをジオターゲティングで配信し、包括的な支援に必要な原資を獲得する

直接金を配ればいいのかという問題ではないのでは？

例えば、すでに貧困家庭への支援としては生活保護のような仕組みがありますが、**生活保護の金額を上げたりお金を配ったらそれで解決するかというと、誰もそうは考えていないはず**です。

支援は親がギャンブルでお金使って終わりかもしれませんし、虐待を受けている子どもたちは教育が無償かどうかでは救われません。

もちろん貧困家庭への経済的な支援は一定の効果はあると考えられますが、**子どもの貧困は家庭の問題であるため家庭内がブラックボックスである限り、お金を配ってそれで解決というのは難しい**でしょう。

金だけではない包括的なアプローチが必要だと考えます。

包括的なアプローチが必要なのはわかっているが資源がない

子どもたちが幸せな人生を選択できないという問題を減らすには部分的な支援では足りず、**包括的なアプローチが必要なものの、そのためのあらゆる資源が足りていないという課題**があります。

そして、この課題は個人や一企業のレベルでは解決できませんが、国が税金でうまく解決してくれることを期待して待つだけというわけにもいかないため、**個人も含め全員で取り組む必要がある**と考えます。

ただ偉そうなことを言っても、実はみんな無関心

ですが、私たちはSNSで流れてくる身近な（わりとしょうもない）ストーリーに共感し大きく心を動かされる一方、遠い国の戦争には無関心になれる冷たい一面があります。

みなさんは自身が住んでいる地域にどれくらいの貧困家庭がありそうか知っていますか？

その家庭がどのようなサポートをどれくらい必要としているか知っていますか？

それに対して、国や自治体はどのようなサポートをどれくらいできているか知っていますか？

私は知りません。

知りませんが、**これらのデータは国や自治体内にあるはず**です。

見えないですし、流れてこないの、関心を持たないのです。

なんで私たちに見えないのかと言うと、当たり前ですがめっちゃくちゃ配慮する必要のあるプライバシー情報だからです。

配慮は絶対に必要なのですが、目に見えないことに共感することはやっぱり難しいです。

そんなどこまでも無関心になれてしまう私たちですが、**目の前で行われている虐待にショックを受けないほど腐っていません**。

ここがポイントだと思います。

ストーリーに共感したら、アクションする

今なら生成AIを使うことで、加工されたデータをもとにした共感を生む身近なリアリティのあるストーリーを大量に、人手をかけず作成することができます。

「あなたの家の近所に住む、〇歳の〇ちゃんは、栄養失調です」

「〇ちゃんは、両親からこんな虐待を受けています」

「〇くんはいじめを受けて、傷ついています」

自治体が保有するデータから生成されたこれらの動画は、**ジオターゲティングでその地域のスマホを中心としたデバイスに配信**されます。

そしていい人ぶりたい私たちは、そのストーリーに心動かされ、YoutuberやVTuberへの投げ銭、オンラインギャンブルに使うお金の一部（あるいは全部）を子どもたちへの支援に回す、かもしれません。

今よりは増えたお金、あるいは人的リソースを包括的な支援に回すことで、子どもたちが幸せな人生を選択できるように少しでもなったら、いいですね。

国もGoogleもMetaも協力してくれるはず

子どもたちへの投資は、自分たちへの投資なので、きっと国もプラットフォームも協力してくれるはず。

してくれると信じたい。

 **解決したい課題：アイデアで解決したい課題は何で、それをどうしたいですか？**

子どもたちが幸せな人生を選択するために必要な包括的な支援に欠かせない資源（カネ、ヒト）が足りていないという課題を解決します。

 **解決方法：課題をどうやって解決しますか。骨子を記載ください。**

自治体が保有する支援が必要な子どもに関する詳細のデータをもとに生成AIが作った動画を、地域に配信することで支援しなければならぬという共感を得て、寄付という形で資源を獲得する。

 **類似（独創性）：現在、このアイデアと類似する仕組みがあれば記載ください（検索してみてください）**

クラウドファンディングやSNSを通じた寄付の呼びかけはすでに行われているが、どれも貧困をはじめとする問題を抱えている家庭やあるいはその子供が自身で寄付を呼び掛けることはハードルが高くあまり行われていない。

自治体の寄付集めもうまくできているように見えない。

 **有意性：既に存在する類似の仕組みと比べて、どこが優れていますか（存在している場合のみ記載ください）**

どこかのだれかではなく、実際に今存在する近所の子どもが助けを求める動画は無視できるのだろうか。できないと思いたい。という観点でユニセフや団体が直接行うこれまでの寄付の取り組みよりも寄付が集まると思う。

実現方法：どのように実現するか、できるだけ具体的に記載ください（ファイル添付も可）

1. 個別事例をつくる（いきなり国にデータくれは絶対通じないので、NPOなどを通じ個別事例のヒアリング、動画の生成、配信を行う）
2. 実績をもとに、政治家にアプローチする
3. 政治を巻き込みつつ、プラットフォームの協力を仰ぐ
4. 全国の地域に広げていく

課題・障壁：実現する上で課題となることは何ですか、それをどうやって克服しますか

個別事例はやればいだけ。政治を巻き込むところがハードル高い。

期間・コスト：実現に必要な費用と期間はどれくらいでしょうか。初期リリースとそれ以降など記載ください

動画生成AIのランニングコスト、広告費用だけでスタート可能。

未来像：実現したとき、人々がどのように恩恵を受けて幸せになれるか、理想像をお書きください

地域の子どもたちへの貢献により、寄付した人もちょっと笑顔で暮らせるし、子どもたちの未来もちょっとは明るくなるかもしれない。地域の意識が変わって、政治も変わっていくと本当はいいですね。